

# EAR EAR 868PL

¥980,000

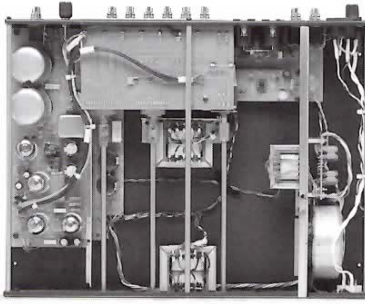
●入力端子:PHONO(MM/MC)1系統、LINE5系統(RCAアンバランス×4、XLRバランス×1)●出力端子:PRE4系統(RCAアンバランス×2、XLRバランス×2)●入力感度/インピーダンス:0.24mV/40Ω(4Ω/12Ωの選択可、MC)、2.2mV/47kΩ(MM)、200mV/47kΩ(LINE)●使用真空管:PCC88/7DJ8×4●寸法/重量:W380×H100×D305mm/10kg●備考:フォノステージ未搭載のライン専用モデルEAR868L(¥698,000)あり●問合せ先:ヨシノレーディング(株) ☎050(3375)3975



フロントパネルのつまみは、左から入力セレクター、テープモニター、ボリューム、そしてパワースイッチ。



フォノ入力にはMM/MC切替え。MCには内蔵する昇圧トランスに対応する。ライン入力はRCAアンバランス4系統、XLRバランス1系統。さらに出力はRCAアンバランス、XLRバランスともに2系統、合計4系統を持つ。



使用する真空管は自社名のPCC88が4本。MC昇圧トランスはケースに収め外部ノイズからの影響を防いでいる。またMCの負荷インピーダンスの切り替えが可能で、4Ω、12Ω、40Ωの中から選べる。

## 試聴に使用したカートリッジ



フェーズテックP1G ¥286,000  
●発電方式:MC型 ●出力電圧:0.27mV以上(1kHz、5cm/sec) ●インピーダンス:40Ω ●適正針圧:1.7~2.0g ●カートリッジ自重:10.2g ●針交換価格:¥171,600 ●問合せ先:協同電子エンジニアリング(株) ☎045(934)5234



付属のリモコン。電源のオン/オフ、ボリュームのアップダウン、ミュートなどができる。

大掛かりなEAR912のエッセンスを投入したという真空管プリアンプ。型番末尾のPLはPHONOイコライザー内蔵タイプであることを意味しており、姉妹モデルとしてラインレベル入力だけの868Lも用意される。フォノイコライザー回路は、初段にFET入力のカスコードアンプを配したハイブリッド構成のNF型で、MCトランスを標準装備。ライン

レベルのバランス入力もトランス受けて、ファイナルステージはバランス/アンバランスともにトランス出力。3次巻線からNFBを帰すなど、徹底したプロ機志向の信号系となっている。とはいえ優雅な民生機である証拠に、モータードライブ方式のリモコン対応型マスターボリュームを備える。

バランス出力とアンバランス出力のトランス巻線は独立しており、負荷抵抗値に留意すれば両方同時に支障なくつかえそう。アンバランス接続で聴いたが、素晴らしく繊細であややか、上質な安堵感に包み込まれるような音の持ち味は、アナログデ

フラッグシップ機のエッセンスを投入したMCフォノ入力対応の管球式プリアンプ。硬軟自在、華麗を極める闊達な音色表現で、ノーブルな雰囲気、弦楽器の瑞々しさに脱帽

高津修

# System 1

Raidho C1.1  
+  
EAR EAR 509II  
+  
EAR EAR 868PL

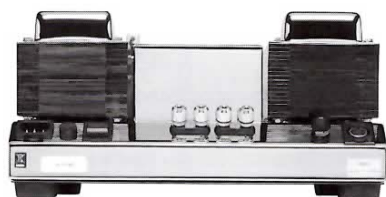
リボン型ならではの  
繊細さと極小の歪み感。  
EARとの組合せで、  
さらに透明度が際立ち  
弦楽器は暖かみを持って  
柔らかく響く



高域にリボン型ならではの繊細で広がり感のある音色で、中低域も歪み感が極小で、軽やかな音離れの良い弾力感を感じさせる。楽器やヴォーカルが浮き上がるように再現するスピーカーである。QUADのコンデンサー型にウーファーを加えたような力感ある音質と言えはわかりやすいだろうか。これをドライブするパワーアンプは、出力管にEL519を使用したEAR



EAR 868PLのリアパネル。プロ用機器から始まった同社らしく、バランス入出力端子を備える。



EAR 509IIのリアパネル。入力はバランス端子のみ。スピーカー端子は4/8Ωを装備する。



別売の専用スタンド(200,000/ペア)に載せたC1.1。振動を抑え込むリッドな設計ではなく、振動を巧みに吸収するグラグラ揺れるスタンド。



509 IIである。クロームメッキが施され、プリアンプEAR868PLの金メッキ・ノブも実に美しい。最初にEMIのベートーヴェン『三重協奏曲』を聴いた。ここでまず、驚いたのは、クセの少ないナチュラリティの高い音質だ。以前に聴いたEARのアンプは、中低域の色濃い、独特のこつりとした低域の押しが印象的だったが、このモデルでは充分な力感を持ちながらも、透明度を際立たせ、味付けの少ない音色に仕上げられているようだった。これもEARの一面なのであろう。

さしにLPレコードの音質に迫る思いがする。中央にやがてチェロ、ヴァイオリン、ピアノのソリストが現われるが、私はオケの弦パートの広がり(ステージの広がりも含め)よりも、このソリストの演奏の細部を克明に聴きたくなった。そこで、スピーカーの左右の軸上線、自分の60cmほど前で交差するように内振りにした。

こうするとややステージの広がり狭まるが、中央にある楽器やヴォーカルの演奏が前面に浮き上がり、音楽の細部がわかりやすくなると同時に奥行きも伸びたのである。ヴァイオリン、チェロの微妙な弱音の力加減、ボウイングの様子が克明となり、LP再生はSACD再生よりも、弦楽器は暖かみを持って、柔らかく空間に響く。ここはEARアンプのS/Nの良さ、倍音

## Speaker System

ライドー **Ayra C1.1** ¥1,000,000(ペア)

●型式:2ウェイ2スピーカー・バスレフ型 ●使用ユニット:ウーファー:11.5cmコーン型、トワイター・リボン型 ●インピーダンス:6Ω ●感度:88dB / 2.83V / m ●クロスオーバー周波数:3kHz ●寸法 / 重量:W200×H370×D360mm / 12.5kg ●備考:写真の専用スタンド別売(¥200,000 / ペア)。C1.1と同時購入の場合¥150,000 / ペア。表示価格はブラック / ホワイト仕上げ。ウォールナット・パール仕上げ(¥1,080,000 / ペア)あり ●問合せ先:(株)タイムロード ☎03(5758)6070

## Power Amplifier

EAR **EAR 509II** ¥1,789,000(ペア)

●出力:100W ●入力端子:1系統(XLRバランス) ●入力感度 / インピーダンス:1.2V / 25kΩ ●負荷インピーダンス:4Ω、8Ω ●使用真空管:ECC85×1、ECC83×2、EL519×2 ●寸法 / 重量:W300×H165×D260mm / 17kg ●備考:真空管保護カバー付属 ●問合せ先:ヨシトレーディング(株) ☎050(3375)3975

## Preamplifier

EAR **EAR 868PL** ¥980,000

●入力端子:PHONO(MM / MC)1系統、LINE5系統(RCAアンバランス×4、XLRバランス×1) ●出力端子:PRE4系統(RCAアンバランス×2、XLRバランス×2) ●入力感度 / インピーダンス:200mV / 47kΩ(LINE)、2.2mV / 47kΩ(MM)、0.24mV / 40Ω(MC、4Ω、12Ωの選択可) ●使用真空管:PCC88 / 7DJ8×4 ●寸法 / 重量:W380×H100×D305mm / 10kg ●備考:フオセクションなしのEAR 868L(¥698,000)あり

表現の良さが出ているのだと思う。

マスターリングの方法も異なるが、SACDではソリストの演奏がタイトかつ高解像度で聴ける。また、最新の重量盤LPレコードは、かつてに較べてダイナミックレンジが拡張されているのと、より溝幅を広めたカットニングが行なわれているためか、質感の高い弱音表現があり解像度も向上しているように思う。木管楽器パートにもLP再生ではこの音質が付加され、豊かな美音を聴かせ、一方、SACDでは伸び上がる音のレンジ感に好感を持つ。

次にパニアゲワの『ラ・フォリア』の2枚を再生した。このアルバムでは、繊細な音のバロックギターやリュート、現在のフルートやオーボエにつながる古楽器、多種の打楽器などが聴ける。SACDはLPレコードで聴ける柔らかで繊細なギターやリュートの音像にグッと近づいた再現になっている。また強烈で鮮明な金属打楽器のレンジ感、SACDが優位にあったが、音の厚みと倍音の広がりと比べると、LPレコードの方が魅力を感じさせる。かつて『ラ・フォリア』はCD盤が発売されていたが、それとLPレコードは音の質感や倍音表現、音の階調の点で少なからず差を感じていた。SACDを含め

たハイレゾ音源と現在制作されている高音質LPレコードの音質は、相互に近づきつつあることが理解できた。

次に『ラ・フォリア』のLPをフェーズメーションのGyro Decで再生した。ライドーC1.1とPP1000といういづれも歪み感を低減する技術を投入したコンポーネントがベストマッチとなり、各楽器の響きに不要な音色を感じさせない透明度、リアリティの富む音に感激した。

MAGICO Q1  
+  
AIR TIGHT Amp

